

1 認定こども園斜里大谷幼稚園の教育目標

- |  |
|--|
| 1 おおたにの子は、いのちを大切にします<br>2 おおたにの子は、素直にありがとうをいいます<br>3 おおたにの子は、みんななかよく頑張ります。 |
|--|

2 本年度の重点目標

- |   |
|---|
| 幼保連携型認定こども園の教育・保育要領の改訂にともない、2点を重点課題としました。<br>①「全体の課題から、一人ひとりの特性や発達課題にそくした指導を行う」ということから、一斉保育から一人ひとりに合わせた保育の実践に取り組む。<br>②「園児の主体的な活動が確保されるよう、園児一人ひとりの行動の理解と予測に基づき、計画的に環境を構成しなければならない。」ということで、環境設定保育に取り組む |
|---|

3 評価項目に対する自己評価

|  |   |
|--|---|
| ①保育の計画性<br>・園の教育理念と教育方針の理解<br>・教育保育指導要領の理解<br>・教育課程の編成<br>・環境の構成<br>・保育と計画の評価と反省 | 令和元年も新要領の実現に向けた新たな取り組みとしてオランダのピラミッド教育に取り組んだ。外部講師による園内研修を各月で行い、正規保育者全員がピラミッドメソッド教師資格を取得することが出来た。今年度は、チーム保育が十分に出来ずピラミッドプロジェクトまでは至らなかった。今後、新たな取り組みが増え、保育内容を体系的に整理していく必要性が出てきた。<br>0歳児から2歳児クラスの保育の方向性がハッキリしなかった。担当制を試みたが、各保育士の負担が大きくなってしまった。令和2年度からは、チームワークを重視した体制で磨きをかけていきたい。  |
| ②保育の在り方、乳幼児への対応<br>・健康と安全の配慮<br>・幼児の見取りと理解<br>・指導とかかわり<br>・保育者同士の協力と連携           | 令和元年度は、大きなケガはなかった。遊びの質やルールの視覚化に取り組み子ども自身のリスク管理能力の向上と無線機による職員のリアルタイムの連携により空間的・時間的な死角の減少に取り組んだ一定の成果ではないかと安堵している。令和2年度も引き続き学びを深めていく。<br>幼児の見取りと理解については、こどもを印象だけで判断するのではなく、各発達を細かくチェックすることで、1人の子どもの多面性を確認できるようになった。また保護者との懇談にも発達資料を提示することが出来た。課題として、クラスによってバラつきがみられた。令和2年度は、足並みがそろろうよう努める。<br>保育者同士の連携体制は、1号認定職員間、2号認定職員間(にこにこ)、3号認定職員間では情報共有がなされていたが、他の認定との間の情報共有が薄かった。全クラスが毎日ブログを更新することで、他のクラスの日々の状態を把握するとともに、保護者への対応に行き違いが生じないよう小まめな連絡に努めたい。 |

|   |   |
|---|---|
| <p>③保育者としての資質や能力・適正</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家としての能力・良識・義務</li> <li>・ 組織の一員としての在り方</li> <li>・ 保育の楽しみ・喜び</li> <li>・ 周りを感じ取れるアンテナ</li> </ul>                                      | <p>令和元年度も、主に5回の園内研修を実施し、今年度も外部講師に保育現場を確認してもらい、取り組みについて考え保育者の技術や姿勢を学ぶ1年となった。令和2年度は、場面にテーマをより絞りこみ、保育に磨きをかけていくようにしたい。</p> <p>組織については、ポジティブな雰囲気へと切り替える意識をもつことが大事だと感じた。マネージメントを学び保育の安定を図りたい。</p>   |
| <p>④保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の発信と受信</li> <li>・ 協力と支援</li> <li>・ 守秘義務の遵守</li> <li>・ 対応上のマナー・良識</li> <li>・ クレームへの対応の仕方</li> </ul>   | <p>情報については、今後も、ホームページでのブログの更新など透明性の高い保育の実現を目指す。特に、新型コロナウイルスの影響で3月には登園自粛となるなど、対応について目まぐるしく変化する場面もあり、メールやホームページで連絡することとなった。令和2年度も引き続き新型コロナウイルスの影響で臨機応変な対応が不可欠だと予想される。集会は控えつつも、印刷物・メール・ホームページで必要な情報を発信し混乱をきたさない配慮が必要だと考える。</p> <p>父母の会活動は三役とクラス委員を中心に活発に行われた。共働き世帯も増加し負担の軽減に努めたが、三役の選出が難しくなってきた。</p> |
| <p>⑤地域の自然や社会とのかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の自然と人々とのかかわり</li> <li>・ 小学校との連携</li> <li>・ 地域への開放と支援</li> </ul>   | <p>地域については、ねぶた祭りへの参加、やすらぎ慰問、声掛け郵便などの活動を継続することが出来た。小学校との連携については、教育支援委員会や教師間の引継ぎや給食の試食会、就学前の体験学習など斜里町主体で行われている。依然として、子ども同士の交流が不足している。</p>   |
| <p>⑥研修と研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修研究への意欲と態度</li> <li>・ 教師としての専門性の向上</li> <li>・ 遊具教材に関する研修研究</li> <li>・ 園内環境に関する研修研究</li> <li>・ 今日的課題に関する研修研究</li> <li>・ 自らを高めるための学習</li> </ul> | <p>保育内容や保育実践について多くの研修を行い、保育士の学習意欲も高かった。障害児の研修については引き続き課題として残る。令和2年度から北海道でも保育心理士資格取得に向けた研修が開催される予定となっており、研修参加が容易となる。多くの職員を参加させ、障害児保育と子育て支援について学びを深めていきたい。令和2年度は新型コロナウイルスの影響の中で、如何に子供たちの心身の健康を保つかが大きな課題となる。</p>   |

#### 4 次年度以降に取り組む課題

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今までの取り組みの定着化をすすめる。</li> <li>・ 3歳以上児クラスについては、ピラミッドメソッドプロジェクトを実施し、ピラミッドメソッドの要素を一通り実践してみるとともに、取り組みについて総括する。</li> <li>・ 0歳児から2歳児クラスについては、チームの連携を高め場の信頼の向上に努める。</li> </ul> <p>また、1・2歳児については、教育の5領域について計画的に導入していく。</p> |
|---|